

〈動向〉

難民問題への本学の取り組み－ 2017 年度－

舟木 讓

本年度も昨年度までと同様、諸団体・関係者・ボランティアの方々のご理解とご協力のもとで、本学における「難民問題」の啓発に向けての取り組みを継続することができた。ご協力をいただいた諸団体・関係者・ボランティアの方々への感謝と共に、以下に本年度本学で実施された取り組みならびに本学と関係する事柄の概要を記すこととする。

最初に、昨年度は、J-FUN ユースの学生諸君が中心となって神戸三田キャンパスと西宮上ヶ原キャンパスで実施した「Meal for Refugees (以下 M4R と記す)」(本学に難民推薦制度を通じて入学した学生が中心となり「特定 NPO 法人 難民支援協会 (以下 JAR と記す)」の協力のもと 2012 年より本学で最初に実施した、食を通じて難民問題を身近な事柄として知るためのイベント)であったが、今年度は諸事情により残念ながら開催が適わなかった。次年度の開催に向けての準備がすでに相談されている。一方、昨年度全国で初となる高校生による「M4R」を実施した本学の高等部では、今年度も昨年同様、本学高等部でグローバル・リーダー・プログラムに参加している三年生が中心となって参加し、「JAR」の皆様ならびに高等部食堂の皆様のご協力のもと、「お昼休み de 国際協力」をスローガンに 2017 年 6 月 19 日－23 日の 5 日間にわたって高等部棟食堂において実施し、「ビルマ風サラダうどん (ミャンマー)」と「レーズンのパンブディング (パキスタン)」を特別メニューとし

て提供することができた (詳細は、関西学院高等部ホームページ参照)。

また今年度も「世界難民の日 (6 / 20)」にに合わせて、西宮上ヶ原キャンパスで開講の「『関学』学」春学期講義の一回を「難民」問題を主題として開講し、ゲストスピーカーとして昨年度同様、野津美由紀氏 (JAR 広報部コーディネーター) をお招きして 2017 年 6 月 13 日に実施した。また、翌 6 月 14 日には、同氏によって経済学部のご協力の下経済学部チャペルにおいてメッセージが語られ、有意義な時を持つ事がゆるされた。

秋学期には大学主催秋季人権問題講演会の主題の一つとして難民問題を取り上げ、UNHCR 駐日事務所ならびに国連 UNHCR 協会のご協力を得て、UNHCR 元職員で国連 UNHCR 協会の設立に尽力された中村恵氏 (国連 UNHCR 協会ファンドレイジンググループ団体・学校統括) を講師としてお招きし西宮上ヶ原キャンパスならびに神戸三田キャンパスで、下記のように実施した。ご講演の中では自らが UNHCR 職員として派遣された地での経験を踏まえたお話し、またシリア難民、ミャンマーにおけるロヒンギヤに対する弾圧等現在の難民をめぐる状況が切迫感をもって語られ、すぐそばにある問題として共有する機会が与えられた。いずれのキャンパスでもご講演後も複数の学生が中村氏のもとに質問に集まり、良き問題啓発と共有の時を持つことができた。

主題：「国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) とは？
私たちに出来ること」

・神戸三田キャンパス：

日時：2017年11月16日 (木)

11：10 - 12：40

場所：II号館201号教室

・西宮上ヶ原キャンパス：

日時：2017年11月16日 (木)

15：10 - 16：40

場所：関西学院会館レセプションホール

また、2014年度より、本学在学学生からの要望と協力の申し出によって実現した「UNHCR 難民映画祭」への協力として、今年度も昨年度から始まった新たな協力体制である「学校パートナーズ」として大学と千里国際中等部・高等部ならびに大阪インターナショナルスクールの協力を得て実施することができた。また、これまで本学の上映に際して様々なご助言とご協力をいただいていた今城大輔氏 (元 UNHCR 難民映画祭プロジェクトマネージャー) が5月末で退職されたことを受け、新たに西村愛子氏 (UNHCR 駐日事務所渉外アソシエイト) をはじめ国連 UNHCR 協会の方々のご協力のもと下記のように開催した。

なお、詳細は、国連 UNHCR 協会のホームページに他校の実施報告と共に掲載されている。

・「12th.UNHCR 難民映画祭」学校パートナーズ
上映

主催：関西学院大学、J-FUN ユース K.G

協力：UNHCR 駐日事務所、国連 UNHCR 協会

実施日時：2017年11月22日 (水)

15：45 - 18：00

開催場所：神戸三田キャンパス アカデミック
コモンズ クリエイティブスクエア

上映作品：「グッド・ライ～いちばん優しい嘘～」
フィリップ・ファラルドー監督/
アメリカ/2014年作品/ドラマ

実施日時：2017年11月30日 (木)

9：00 - 10：30

開催場所：西宮上ヶ原キャンパス

B号館301号教室

上映作品：「シリアに生まれて」

エルナン・ジン監督/
デンマーク、スペイン/
2016年作品/ドキュメンタリー

実施日時：2017年11月30日 (木)

15：45 - 18：00

開催場所：関西学院千里国際キャンパス

3階会議室

上映作品：「ナイス・ピープル」

カリン・アヴ・クリントベルグ、
アンデシュ・ヘルグソン監督/
スウェーデン/
2015年/ドキュメンタリー

実施日時：2017年12月8日 (金)

15：45 - 18：00

開催場所：関西学院千里国際キャンパス

3階会議室

上映作品：「シリアに生まれて」

エルナン・ジン監督/
デンマーク、スペイン/
2016年作品/ドキュメンタリー

以上の内容で実施され、合計で約300名を越える視聴者を数えることができた。また神戸三田キャンパスではJ-FUN ユース KGに所属する学生が中心となり準備・上映を実施し、西宮上ヶ原キャンパスでは経済学部1年生の三名が当日の準備・受付等をボランティアとして献身的に協力してくれたことにより実施でき、また千里国際キャンパスでは野島大輔教諭 (関西学院千里国際キャンパス人権教育推進委員) のご協力のもと初めての上映ができたことを感謝を持って合わせて報告させていただく。また、次年度以降の上映も切望され

ており「映画祭」への協力体制がととのっていく可能性が見出されたことも大きな収穫であった。

2017年、多くの方々の献身的な働きにも関わらずロヒンギャの問題等さらに深刻さを増している難民問題であるが、そのことを鑑み本学の経済学部でも毎年度実施される「人権・ハラスメント研修会」において今年度は「難民問題」の理解と啓発を主題として、上記の野津美由紀氏をお迎えし、12月13日(水)15時30分より17時まで経済学部会議室において「日本における難民受け入れの課題」と題して

ご講演をいただき、活発な質疑応答が交わされた。

さらに、毎年度春学期・秋学期に実施している「キリスト教週間」において、秋学期の主題を「身近にある『グローバル』」と題し下記のように実施し、その講師の一人として、2012年度に本学の難民推薦入試制度によって総合政策学部へ入学、「M4R」を企画・推進されたテュアン・シャンカイ氏をお招きし、難民問題に関して学生へのメッセージならびに教職員へのメッセージを届けていただくことができた。

● 10月12日(木)

	上ケ原	神戸三田	聖 和
場 所	中央講堂	VI号館101教室	メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
メッセージ	テュアン・シャンカイ (総合政策学部卒業生)	国際社会貢献活動 参加学生2名 半井翔汰(経3年) 森口侑希奈(経3年)	国際社会貢献活動 参加学生2名 西井智則(教4年) 奥村南実(経3年)
司 式	嶺重 淑 大学宗教主事	前川 裕 理工学部宗教主事	梶原直美 教育学部宗教主事
奉仕団体	ハンドベルクワイア	関西学院 Sandian Brass	学生有志

※教職員の集い 18:30 担当:文学部 奨励: テュアン・シャンカイ氏(総合政策学部卒業生)

● 10月13日(金)

	上ケ原	神戸三田	聖 和
場 所	中央講堂	VI号館101教室	メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
メッセージ	交換学生2名 リア ジーン ロバーツ (アメリカ) ステファノ ヴァレンティノ スギヤント (インドネシア)	テュアン・シャンカイ (総合政策学部卒業生)	木村 愛 (キャリアセンター職員)
司 式	打樋啓史 社会学部宗教主事	村瀬義史 総合政策学部宗教主事	梶原直美 教育学部宗教主事
奉仕団体	ゴスペルクワイア “P.O.V.”	KG Blessed Choir	バロックアンサンブル

難民問題に関する啓発活動とその理解と協力に向けての努力が多く、組織・方々によって継続している一方で、日本における難民受け入れは未だ進んでおらず、2016年に6,770万人にまで増加したにも関わらず、2016年日本における難民認定者は28人（昨年比1名増）にとどまっている。一方2016年の難民申請は10,901名（昨年比3315名増）にのぼる（法務局入局管理局による2017年2月10日の報道発表）。そうした日本の状況の中で、11月19日（日）、本学が日本の大学では先駆けとなって協力した難民高等教育事業（以下RHEPと記す）パートナー大学として共催する形で、上智大学においてAntonio Guterres氏（現、国連総長）の後任として国連難民高等弁務官に就任されたFilippo Grandi氏を迎えて公開講演会が実施され、小職が出席させていただいた。主題は「難民の国際保護と私たちにできること～教育の役割～」で、難民支援として、住居と食料の提供は不可欠であるが、もう一つの支援として、教育の重要性が語られた。現在難民の50%以上が18歳未満であることを鑑み、次世代を担う難民の方々への高等教育も含む教育の重要性が改めて訴えられた。また講演後、本学が最初の実施大学となったUNHCRとの協力で進めてきている「RHEP」を通じて大学を卒業した3名が登壇し、それぞれの経験等を通じた貴重なメッセージが語られ、当事者として教育（高等教育）の重要性が指摘された。ここで特筆すべきは、登壇者3名のうち2名が本学の卒業生であったという点である。一名は既述のシャンカイ氏（2015年度総合政策学部卒）もう一名が2014年度に国際学部を卒業し、現在起業し、出身国であるベトナムとの架け橋を目的に通訳・翻訳を行っているドアン・ティ・チャン氏であったという点である。シャンカイ氏はミャンマー難民の二世として、チャン氏はベトナム難民として日本で高等教育を受けた経験と、今の働きとの関係について忌憚のない意見を交わされた。

最後に、昨年度より本学の経営戦略研究科においてJICAが中心となって推進している「シリア平和への架け橋人材育成プログラム」に参画し、シリア

難民の学生を受け入れていることも記しておく。今年度も多くの方々のご協力とご理解によって、以上の活動が実施され、また次年度の計画に向けての歩みを始めることができていることに心より感謝して、今回の報告とさせていただきます。